

国際交流事業

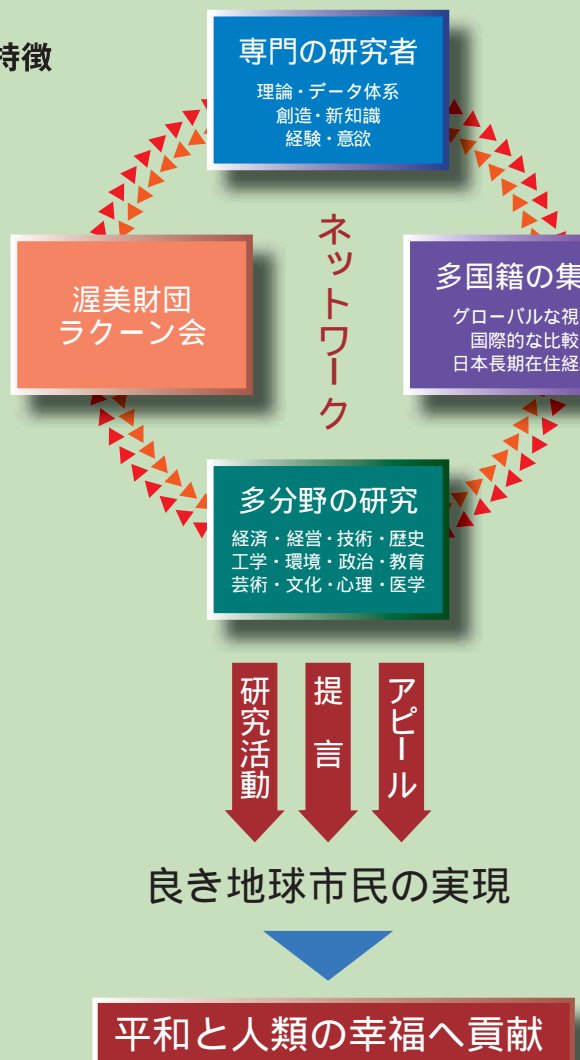
良き地球市民の実現をめざします



SGRAとは?

SGRAは、世界各国から渡日し長い留学生生活を経て日本の大学院から博士号を取得した知日派外国人研究者が中心となって、個人や組織がグローバル化にたちむかうための方針や戦略をたてる時に役立つような研究、問題解決の提言を行い、その成果をフォーラム、レポート、ホームページ等の方法で、広く社会に発信しています。研究テーマごとに、多分野多国籍の研究者が研究チームを編成し、広汎な知恵とネットワークを結集して、多面的なデータから分析・考察して研究を行います。SGRAは、ある一定の専門家ではなく、広く社会全般を対象に、幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動を狙っています。良き地球市民の実現に貢献することがSGRAの基本的な目標です。

SGRAの特徴



概要

- 名称・所在
1. 本会は、「開口グローバル研究会」(SGRA (Sekiguchi Global Research Association)) と称します。
2. 本会は、遼東国際交流財団の国際交流事業の一環であり、次項の目的・事業の実現を目指すネットワークです。
3. 本会は、事務局を東京都文京区関口3丁目5番8号(前)遼東国際交流財団内に置きます。

目的・事業

本会は、「地球市民の実現」という共通の理念に基づき、一般社会・教育・文化など様々な問題について、学際的、国際的、かつ多角的な発想の研究成果を創出し、それらを実践的立案、提言、実践支援及びその普及を通じて、地球市民の将来を考え、価値ある利益の増進と良き社会の発展に努めることを目的としています。この目的を達成するため、研究会の開催、情報提供活動、普及・啓発活動、政策提言活動、その他「地球市民の実現」にかかわる活動を行います。

会員

- 本会は、本会の目的に賛同し、共に行動あるいはこれを支援しようとする賛助会員(法人と個人)、および特別会員、メル会員をもって構成されています。
1. 賛助会員を賛助会員と呼称します。本会の年次報告、SGRAレポート、SGRAかわらばんの配送を受け取ることができます。
2. 特別会員は運営委員会より指名されます。本会の年次報告、SGRAレポート、SGRAかわらばんの配送を受け取ることができます。
3. メール会員は原則本人からの自動登録・退会となりますが、運営委員会の承認を必要とします。SGRAかわらばんの配送を受け取ることができます。

運営体制

- 本会は、遼東財団の基本財産運用益と法人・個人からの寄附金、諸機関から各プロジェクトへの助成金、その他の収入を運営資金とし、運営委員会、研究チーム、プロジェクトチーム、編集チームによって活動を推進しています。
1. 運営委員会は、本会の運営に関する重要事項について決議します。
2. 研究チームは、研究員より構成し、必要に応じて他の参加者を含め、メンバーの意見を反映させて事業を遂行し、広く情報提供を行います。
3. プロジェクトチームは、主に海外拠点プロジェクトにおいて個別案件の特別組織として構成されます。
4. 編集チームは、編集委員をもって構成し、レポートの編集、発行を行います。

谷折

SGRAの研究活動

国内における研究交流活動

「研究チーム」によるSGRAフォーラム40回開催(2000-2010)

7つの研究チーム

地球 **グローバル化と地球市民**
ますますグローバル化する世の中における「地球市民(Global Citizen)」の位置付けを課題として取り組んでいます。

エネルギー **環境・エネルギー**

技術と社会の両方に立って、多分野、多視点、多方面から問題に立ち向かい、実用できる技術と現地調査のデータに基づいた新しい発想で、エネルギーと環境問題のソリューションを提案します。

ITと教育

IT技術の進歩によって変化する教育の利点と課題を総括し対応策を提案します。

東アジアの人材育成

国際化・情報化の時代において、アジア各国が繰り出す人材育成競争および国際を越えた人的移動に伴う技術移転、文化摩擦、教育格差などの課題とその背景についての研究に取り組んでいます。

東アジアの安全保障と世界平和

21世紀を迎えた東アジアは、何よりも相互理解と信頼、そして平和と神話が求められています。今まで互いの信頼と理解を損なう要因は何だったのか、さらにこの地域において安全保障と平和への道とは何だろうか、という課題に取り組んでいます。

宗教と現代社会

多くの日本人にとって宗教とは何か理解しにくいかもしれませぬ。現代の日本社会にとって宗教とは何か、宗教はどんな役割を果たしているのか、という課題に取り組んでいます。

構想アジア

世紀を跨いでアジアは開港と繁栄の時代になりつつあります。歴史を鏡としながら、現在のアジアはどうあるべきか、50年または100年後のアジアをどのように構想し、構築していくべきか、それに向けての諸課題をグローバルな視点に立って探求します。

海外拠点における研究交流活動

「共同プロジェクト」の推進

日韓アジア未来フォーラム

韓国(財)未来人力研究院との共同で、毎年日韓交互に研究者を招待してフォーラムを開催します。社会科学や人文科学における諸課題を日本、韓国、そしてアジア諸国の観点から複眼的に検討します。

日比共有型成長セミナー

1970年代に日本が成長し遂げた経済の成長と分配が同時に進む「共有型成長」を基本テーマに、フィリピンを中心とした社会科学における諸課題を検討するセミナーを、マニラにて、フィリピンの大学と共催します。

SGRAチャイナ・フォーラム

環境問題や人材育成などの分野における公益事業に携わる日本の民間人による活動を、北京を始めとする中国各地の大学で紹介しています。

ウランバートル日モ国際シンポジウム

モンゴルや日本関係に関する歴史学や社会学上の課題について国際的かつ学際的に検討するシンポジウムを、ウランバートルにて、モンゴルの国際研究所と共催します。

SGRA台湾フォーラム

「国際日本学の最前線」という総合テーマのもと、日本研究に関わる諸課題を検討する国際フォーラムを、台北において、台湾大学日本語学系と共催します。

支援活動

JAANUS

英文による日本語・英米用語のオンライン辞書のテクニカルサポート

谷折



SGRAの歩み

2000

- 設立記念「21世紀の日本とアジア」(東京)
- OSV国際シンポジウム「グローバル化への挑戦」(ソウル)
- 第19回フォーラム「東アジア文化再考 自由と市民社会をキーワードに」(東京)
- 第20回フォーラム「東アジアの経済統合 誰はまだ飛んでいるか」(軽井沢)
- 第5回日韓アジア未来フォーラム「東アジアにおける韓流と日流 地域協力におけるソフトパワーになりうるか」(ソウル)
- 第21回フォーラム「日本人は外国人をどう受け入れるべきか 留学生」(東京)

2001

- 第2回フォーラム「グローバル化のなかの新しい東アジア」(東京)
- 第3回フォーラム「共生時代のエネルギーを考える」(東京)
- 第4回フォーラム「IT教育革命 ITは教育をどう変えるか」(東京)
- 第5回フォーラム「グローバル化と民族主義」(東京)
- 第1回日韓アジア未来フォーラム「グローバル化と東アジア」(キャンピオン)
- 第6回フォーラム「日本とイスラーム 文明間の対話のために」(東京)

2002

- 第7回フォーラム「地球環境診断 地球の砂漠化を考える」(東京)
- 第2回日韓アジア未来フォーラム「動揺する日本の神話」(軽井沢)
- 第8回フォーラム「グローバル化のなかの新しい東アジア」(軽井沢)
- 第9回フォーラム「情報化と教育」(東京)

2003

- 第10回フォーラム「21世紀の世界安全保障と東アジア」(東京)
- 第11回フォーラム「地球市民研究 国境を越える取り組み」(東京)
- 第12回フォーラム「環境問題と国際協力 COP3の目標は実現可能か」(軽井沢)
- 第3回日韓アジア未来フォーラム「アジア共同体構築に向けて日本及び中国の役割」(キャンピオン)
- 遼東財団学生の集い「民族紛争 どうして起こるのか どう解決するか」(東京)
- 第13回フォーラム「日本は外国人をどう受け入れるべきか」(東京)

2004

- 第14回フォーラム「国境を越える E-Learning」(東京)
- 第1回日比共有型成長セミナー「フィリピン経済特区の日系企業(1)」(マニラ)
- 第15回フォーラム「この夏、東京の電気は大丈夫?」(東京)
- 第16回フォーラム「東アジア軍事同盟の過去・現在・未来」(軽井沢)
- 第2回日比共有型成長セミナー「フィリピン経済特区の日系企業(2)」(マニラ)
- 第17回フォーラム「日本は外国人をどう受け入れるべきか 地球市民の義務教育」(東京)
- 第3回日比共有型成長セミナー「カピチ経済特区」(カピチ)



2005

- 第18回フォーラム・第4回日韓アジア未来フォーラム「韓流・日流 東アジア地域協力におけるソフトパワー」(東京)
- 第19回フォーラム「東アジア文化再考 自由と市民社会をキーワードに」(東京)
- 第20回フォーラム「東アジアの経済統合 誰はまだ飛んでいるか」(軽井沢)
- 第5回日韓アジア未来フォーラム「東アジアにおける韓流と日流 地域協力におけるソフトパワーになりうるか」(ソウル)
- 第21回フォーラム「日本人は外国人をどう受け入れるべきか 留学生」(東京)

2006

- 第22回フォーラム「戦後和解プロセスの研究」(東京)
- 第4回日比共有型成長セミナー「フィリピンの経済特区」(マニラ)
- 第23回フォーラム「日本人と宗教 宗教って何なの?」(東京)
- 第24回フォーラム「ごみ処理と国境を越える資源循環」(軽井沢)
- 第25回フォーラム「ITは教育を強化できるか」(東京)
- 第1回チャイナ・フォーラム「若者の未来と日本語」(北京)
- 第6回日韓アジア未来フォーラム「東日・反日・反日 多様化する韓国の対日観」(釜山)
- 第26回フォーラム「東アジアにおける日本思想 私たちの出会いと将来」(東京)
- 第5回日比共有型成長セミナー「マイクロクレジットと観光産業クラスター」(マニラ)

2007

- 第27回フォーラム「アジアにおける外来種問題 ひとの生活との関わりを考える」(東京)
- 第28回フォーラム「いのちの尊厳と宗教の役割」(軽井沢)
- 第2回チャイナ・フォーラム「黄土高原緑化協力の15年 無理解と失敗から相互理解と信頼へ」(北京・ウルムチ)
- 遼東財団学生の集い「龍島守之助とパン・アジア主義」(東京)
- 第29回フォーラム「広告と社会の複雑な関係」(東京)
- 第6回日比共有型成長セミナー「フィリピンの自動車産業」(マニラ)

2008

- 第30回フォーラム「教育における「負け組」をどう考えるか」(東京)
- 第7回日韓アジア未来フォーラム「東アジア地域協力の過去、現在、未来」(グアム)
- 第7回日比共有型成長セミナー「共有型成長への道 フィリピン自動車産業(1)」(マニラ)
- 第31回フォーラム「木田から油田へ エネルギー供給、食糧安全と地域の活性化」(東京)
- 第1回ウランバートル日モ国際シンポジウム
- 「アーカイブス・歴史・文学・メディアからみたグローバル秩序」
- 第32回フォーラム「オリンピックと東アジアの平和繁栄」(軽井沢)

谷折



- 第8回日比共有型成長セミナー「共有型成長への道 フィリピン自動車産業(2)」(マニラ)
- 第3回チャイナ・フォーラム「一燈やがて万燈となる如く アジアの留学生と生活を共にした協会の50年」(延吉・北京)
- 第33回フォーラム「東アジアの経済統合が格差を縮めるか」(東京)
- 第9回日比共有型成長セミナー「船舶工学と海洋工学コース設立に向けて」(マニラ)

2009

- 第34回フォーラム・第8回日韓アジア未来フォーラム「日韓の東アジア地域構想と中国観」(東京)
- 第10回日比共有型成長セミナー「労働力の移動と貧困」(マニラ)
- 第35回フォーラム「テレビゲームが子どもの成長に与える影響を考える」(東京)
- 第2回ウランバートル日モ国際シンポジウム「世界史の中のモンハン事件」(ハラハ河合戦)」(ウランバートル)
- 第36回フォーラム「東アジアの市民社会と21世紀の課題」(軽井沢)
- 第11回日比共有型成長セミナー「共有型成長への道 フィリピン自動車産業(3)」(マニラ)
- 第4回チャイナ・フォーラム「TABLE FOR TWO 世界的課題に向けてい若者ができること」(北京・上海)
- 第37回フォーラム「エリート教育は国に「希望」をもたらすか」(東京)

2010

- 第9回日韓アジア未来フォーラム「東アジアにおける公演文化(芸能)の発生と現在」(キョンジュ)
- 第12回日比共有型成長セミナー「共有型成長と環境 都市交通を事例に」(マニラ)
- 第38回フォーラム「Better City, Better Life 都市・建築のエネルギー事情とライフスタイル」(豊特)
- 第3回ウランバートル日モ国際シンポジウム「日本・モンゴルの過去と現在」(ウランバートル)
- 第5回チャイナ・フォーラム「中国の環境問題と日中民間協力 内モンゴルの地下資源開発問題」(フフホト)
- 第5回チャイナ・フォーラム「中国の環境問題と日中民間協力 北京の水問題」(北京)
- 第39回フォーラム「ポスト社会主義国における宗教の復活」(東京)
- 第13回日比共有型成長セミナー「農村と都会における貧困コミュニティ」(マニラ)

2011

- 第10回日韓アジア未来フォーラム「1300年前の東アジア地域交流」(奈良)
- 第40回フォーラム「東アジアの少子高齢化問題と福祉」(東京)
- 第1回総合フォーラム「国際日本学の最前線に向けて 流行・言葉・物語の力」(台北)
- 第41回フォーラム「東アジア共同体の現状と展望」(豊特)

SGRAレポート (ISSN 1346-0382)

SGRAフォーラムの講演録とSGRA研究員からの投稿論文をSGRAレポートとして発行します。紙本のレポートは賛助会員と特別会員および、日本の大学の国際センター、留学生会館、海外の大学の日本研究センター等に贈呈します。PDF版はSGRAホームページからどなたでも無料でダウンロードできます。また、レポートを英語、中国語、韓国語などに翻訳して発行します。

<http://www.aisf.or.jp/sgra/active/report/>



SGRAかわらばん

SGRAの活動をさらに多くの方々を知っていただくために、「SGRAかわらばん」の無料電子メール配信をしています。「SGRAかわらばん」は、世界各地のSGRA会員の日本語エッセイとSGRAフォーラム等のお知らせを毎週水曜日にお送りしています。ご購読ご希望の方は、SGRAホームページから自動登録していただけます。

http://www.aisf.or.jp/sgra/entry/mailling_form/

エッセイ集の出版

遼東財団の5周年、10周年、15周年を記念してSGRA会員のエッセイを本に纏めました。ご購入ご希望の方は遼東財団事務局へご連絡ください。



中面

中面